

信仰心の厚い福嶋人

秋から冬にかけて、信仰心の厚い福島の年寄りたちは、この絵のように、お座を設けて「おまいり」をした。

公民館が出来てから、公民館が「お座」の場所になったが、それ以前は夫々の家で「お座」を持つのが慣わしであった、時代が長く続いた。

今年も、家で「お座」を持つとうと決心したら、其の準備に、家中挙げて用意をする。

座敷を整備したり、家具や什器を買い整えたり、仏具を、家の格に相応しい物を購入したりして、大変なほど物入りが続く。

例えば、ある家の分家が、仏壇を購入したと、親に報告すれば、親は「あれも、一人前になって、仏壇を、買った」とこの上なく喜んだ。

また、三年・七年などの年忌の際には、親類を集めて「年忌のお参り」をする。

その為に、仏壇を、主人の現在の地位に相応しいものに取り替えたりして、親類中に披露したりした。

何処がこの、仏壇は「美川」、いや「金澤」、のもので、「いくら・いくら」したと言うのが、家の格を決めたりする、目安になったという。

そのために、一生懸命に家業に励んだり、するのが福嶋人の信仰と生きがいでもあった。福嶋人は、全部「善男善女」であった、と思う。

